

令和5年度第1回高知西病院地域協議会 議事概要

【構 成 員】	(行政)	藤野 晋太郎	(高知県健康政策部医療政策課 課長)
		北添 地平	(高知市健康福祉部地域保健課 課長)
	(医師会)	野並 誠二	(高知県医師会 会長)
		藤井 貴章	(高知市医師会 理事)
	(関係医療機関)	先山 正二	(国立病院機構高知病院 院長)
	(利用者)	土居 怜子	
(高知西病院)		山田 光俊	(院長)
		梶谷 充	(副院長)
		猪熊 秀貴	(事務長)
		前川 紋子	(看護部長)
		山元 ふみ子	(副看護部長)

【開催日時】 令和5年10月12日(木) 13:00~14:00

【開催場所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院 健康管理センター1階会議室

- 【議 題】
1. 当院の概況について
 2. 当院の経営状況について
 3. 健康管理センターの活動状況について
 4. その他

【出席者】 (行政) 高知市地域保健課・北添課長
(医師会) 高知県医師会・野並会長、高知市医師会・藤井理事
(関係医療機関) 国立病院機構高知病院・先山院長
(利用者) 土居 怜子
(高知西病院) 山田院長、梶谷副院長、猪熊事務長
前川看護部長、山元副看護部長
豊永事務長補佐(総務企画)、原田副看護師長

【概 要】

1. 当院の概況について

当院の概況(理念・基本方針、沿革、診療科・診療機能、職員数、患者数、健診運営状況、収支状況等)について説明する。

令和5年1月からコロナ病床を10床から20床として運用していた。令和5年5月8日から5階西病棟を休床とし5階病棟22床で運用している。コロナ病床は県の要請もあり、令和5年10月以降も10床を確保している。

病棟全体でみると許可病床154床、稼働病床135床で運用している。

診療科は9診療科あり、人工透析血管外科はベッド数30、バスキュラーアクセスセンターを開設しており合計3名の医師で毎週シャント管理を行っている。

手術については外科、整形外科が主となり外科ではヘルニア手術、乳がん手術、整形では骨折、人工骨頭などの手術を行っている。

職員の状況としては、医療職(目)の看護師が定数112名に対して現員101名で△11名となるなど離職が多くなっている。

健診センターの運営状況としては、毎年1万件程度の健診を行っている。

収支については、平成30年度からを提示している。収支率103%で推移していたが令和4年度は100.4%と減少している。患者数がコロナの影響で減少している。

また、アスベストの撤去費用として8,800万円を引き当てているためこのような収支となった。

2. 当院の経営状況について

令和5年9月現在の病院運営状況（当院を取り巻く環境、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、収支状況、健康管理センター運営状況）について以下の通り説明する。高知市の人口推移をみると、年々減少している。しかし、朝倉、神田、鴨部地区は大きく変わっていない。これについては、当院には有利と考える。

入院患者の状況としてはコロナの影響もあり低かったが、9月、10月と増えてきている。患者数増に努めていく。

本年5月までは、5階病棟35床を休床としていたが、5月以降5階地域包括ケア病棟を22床で再開した。それにより患者数も戻ってきている。入院患者の中心は整形外科であるが、内科も増えてきている。

外来については目標193.5名としているが、コロナ以降180名～190名で推移している。科別の内訳については、大きな変化はない。

収支状況については、単月で4月、6月、8月は赤字。5月、7月は黒字であった。累計で約5,400万円の赤字となっている。前年は8月で約3,800万円の赤字であり、8月以降、コロナの影響でますます低くなって1億円程の赤字となったがコロナの補助金で助けられ、黒字化した。

手術件数の推移をみると最近では400件程度となっている。整形160件、うち60件程度が人工関節手術となっている。シャントの手術も令和2年以降、増えており約200件行っている。

健康管理センターについては、年間1万件、収益で2億円といったところである。今年4月、5月と予約件数を控えた関係でスタートダッシュが切れていない。8月、9月になって1,000件に迫る件数を実施し、8月の収益は2,000万円を超えている。

救急の受け入れについては466件中134件を受け入れている。28.8%の受け入れ率である。4～6月は30%、7月は20%となっている。救急の要請件数が大幅に増加したが受入れが30件程度にとどまっていることが要因である。

10年間の患者数推移をみると入院は110名程度、令和4年度も102.6名であった。診療単価は35000円～38000円となっている。外来については以前は200名を超えていたが令和2年度からは200件を割って減っている。

当院の弱いところは紹介率が18%と低いところである。逆紹介は40%程度となっているが、まだ紹介いただけていない施設もあり営業が足りていないのかもしれない。

3. 健康管理センターの活動状況について

健康管理センターの業務内容、保健予防活動への取り組みについて説明。精検受診率の向上、保健指導の実施、健康増進（禁煙指導など）に積極的に取り組んできている。

健診を受けたくても受けられない状況がないように1人でも多くの受診者を受け入れることができるよう協働している。健診枠増加、検査枠増加のために起こりうる問題点を調整したりしながら行っている。本年9月に腹部エコーも新しくなっており、実施数も増やしている。

がん検診に対して、精検の必要性を説明するなどの対策を強化し翌年受診率増の効果があつた。翌年、電子カルテの導入などもあり追跡調査のデータが取れていない。追跡できるよう体制を整えてきたが、今の様式では昨年度からの経過もわからず、他院の医師からも指摘を受けている状況にある。

受診後の指導について対象者が何の情報が必要かをアセスメントして対象者が自分自身で動けるようになることを心掛けて説明している。

掲示等では、高知県の特徴である男性の喫煙率の高さに注目した。また、禁煙をしたいと思っても実際に行動に移せていない状況があつた。禁煙支援として、行動変容レベルに応じた視覚に訴える資料を提示し効果的な指導が行えるようにした。

健康教室も再開している。要望があればどちらにでも出向きたいと考えている。

4. その他（ご意見等）

○職員数について

（出席者）当院でも薬剤師の欠員が多い。グループ全体でも欠員がある。薬剤師が充足しているようなので、取り組みがあれば教えてほしい。

（当院）採用を関西・四国地区で行うこととなっているのは国立病院機構と同じである。地区の方でも採用が難しい状況にあり、年間何回も採用試験を行って徐々に採用していつているところである。給与の面でいうと民間よりも低いと思われる。採用担当者に聞いても病院薬剤師にはならず、調剤薬局へ行く人が増えている。当院も4月1日時点では5名いたが退職があり4名となり1名欠員となっている。採用が近畿・四国地区で行うこととなっているため、高知に来てくれる人員が少なく同じような状況にある。

○健診センターの取り組みについて

（出席者）喫煙についての状況、禁煙に対する具体的な取り組みの状況などご説明ありがとうございました。禁煙外来につなげていくこともあると思うのですが、現状はどうですか。

（当院）比較的、禁煙しやすい禁煙外来を紹介することもあります。禁煙薬についても供給がストップしているなどの最新の情報を提供している。そのうえで、自分でやめるのか、禁煙外来に行くのかなど選択を行ってもらっている。紹介先は禁煙外来高知に掲載されているので、情報提供している。

○医師の働き方改革について

（出席者）医師の働き方改革についての取り組み状況はどうか。大きな影響はありますか。

（当院）当院はA水準の予定である。大きな影響はない。

○災害時について

（出席者）南海トラフ地震など広域の災害訓練があり、当院も実施した。そのとき災害拠点病院であるので、透析患者がくるが、どうしようかということになった。近隣医療機関であり、透析を実施している高知西病院にご協力を仰がないといけないとなった。中央は駅あたりで分断され、高速も使えなくなる状況で、西側の方から透析患者がたくさん来るであろうと考えられる。訓練実施の際に、高知西病院にご協力いただかないといけないなというのが実感でした。ぜひ、今後ともよろしく願いいたします。

（当院）建物が使えなくなるなどの場合には国立高知病院の方に出向いていかなければいけないと考えています。国立高知病院とは近くですので、医療機器の共同利用など相互に連携をお願いしたいと考えております。行政の方には、非常時の連携などについてお頼みすることがあるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（出席者）こちらこそよろしくお願いいたします。救護病院という位置づけでいてくださるので。通信訓練をいつもやりながら、内閣府主催の演習の時にあんしんセンターにDMATの方がたくさん入っていただきましたが、本部もDMATの方といっしょにやらないと、依頼がたくさん入っても判断を委ねるところがかなり必要になる。また透析病院は数が限られているので、たくさんの人をすべて拠点病院にとは実際に難しい。今度、22日に高須病院で救護訓練を高知市主催でやるようにしています。高須病院も通常の外来と透析と2パターンの訓練をするようプランを立てているが、入院もあり、外部の患者さんを何名受け入れられるかなど地域の連携も出てくる。交通手段や道路もどこが使えるかなど想定しにくい。東の広いエリアの方が通院されているので、災害時かかりつけに相談を依頼するとなると救護病院、拠点病院ということになってくるのでそこをどういうふうに外来をカバーしていこうかということが課題かなと考えている。この部分は病院と連携をしていかなければいけない。また、よろしく願いいたします。

(当院) 不安な要素もあるが、皆さんで考えていきたい。

○薬剤師の確保について

(出席者) 昨日、県の薬審議会にて薬剤師の不足について報告があった。

高知県では関西地区、四国地区の薬学部の学生に学費、生活費の補助をしている。
180万円の学費のうち120万円、生活費を毎月3万円を補助し、高知県へ帰ってくれば
支払いを免除する取り組みを行っている。

○給食業務従事者の不足について

(出席者) 昨日、食と栄養の会でも給食業務従事者の不足の報告があった。

県内でもマンマーの方を雇うとかそんな時代になってきている。
あらゆる職種での人手不足が高知県内でも起こっている。